

(バーコードシール)

(宛名シール)



NPO法人 とやまの木で家をつくる会

〒930-0887 富山市五福1区531

電話:076-411-6063 Fax.:076-433-0486

e-mail:mail@toyamanoki.net URL:www.toyamanoki.net/

とやまの杉林探索 片貝川・洞杉の森歩き のおしらせ

日 時 : 2008年10月19日(日) 午前9:00~お昼頃まで 小雨決行

●日 程 : 魚津市 片貝三ヶ集会場駐車場 午前9:00 集合

集会場所の地図



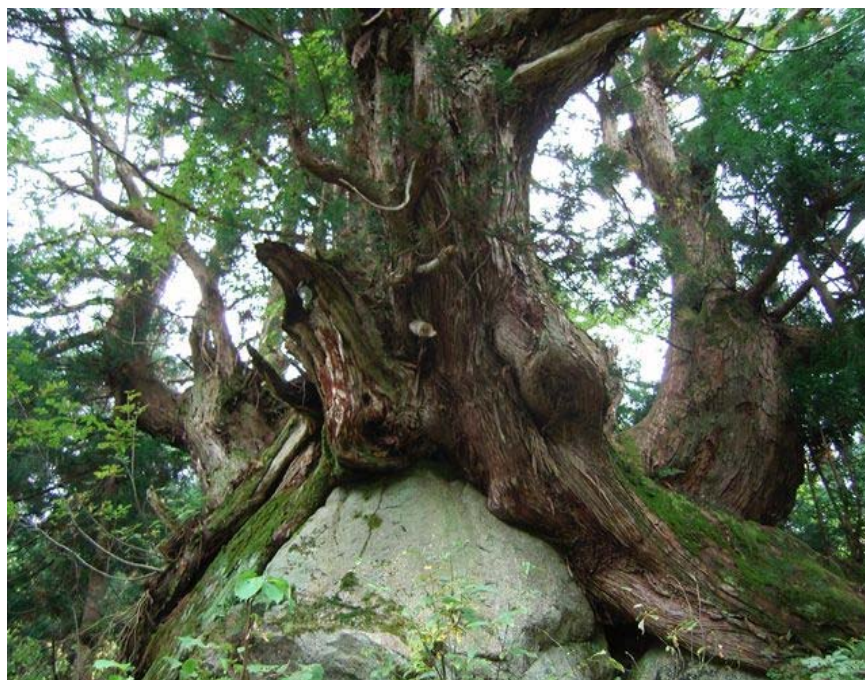
片貝三ヶ(かたかいさんが)集会場から各自の車(又は乗り合わせ)で、洞杉の駐車場へ。散策しながら洞杉を見て歩きます。

時間の余裕があれば車で東城へ移動、東城の間伐展示林・択伐林を見学します(天候・時間等で変更あり)。お昼頃解散。

- 持ちもの : 雨具・熊よけ鈴・飲み物・おやつ
- 服装 : 長袖・長ズボン・長靴もしくはトレッキングシューズなど
- 参加費 : 無料(会員先着30名)
- 案内役 : 新川森林組合 大江常務さん
- 申込先 : とやまの木で家をつくる会事務局へ10月10日(金)までにメールか Fax.でお申し込みください。(番号等は上記枠内参照)
- *お問い合わせは 076-411-6063
- *当日の緊急連絡先:090-2098-2461(上田)

【これぞ圧巻! 日本一の杉に逢いに行こう!】

森林インストラクター 近堂 純



岩を抱え込んだ荘厳な洞杉

ほとんどの杉がこのように根元の部分に穴(洞)があることから洞杉と呼ばれるようになった

平成元年、魚津市の片貝川上流(南又谷)において、120本余りにおよぶタテヤマシの巨木群が電力会社の植生調査で世に知られることとなりました。

これらは「洞杉(どうすぎ)」と呼ばれ、樹齢は五百年から千年、日本有数の急流河川の急傾斜地において、風雪に耐え巨岩を根元に抱え込む風貌が特徴となっています。また、この巨岩が抜け落ち、根元に大きな空洞ができていのも見受けられます。平成12年の環境省の巨樹・巨木調査の杉単体部門において、新潟の将軍杉(幹周り19.31m)、屋久島の縄文杉(16.10m)に次いで、全国第3位(15.60m)の巨樹が洞杉群に確認されていましたが、平成16年の魚津市等の調査で、四本の株立ち幹周り合計が30.18mの洞杉が新たに確認され、全樹種の株立ち部門で日本一クラス(未確定)であることがわかりました。

日本一の真偽はともかく、洞杉は縄文杉と並んで、最高の圧倒感と存在感を持ち合わせており、全国の自然愛好家の憧れの的となり、富山の自慢ともなっています。

「とやまの木で椅子を考える」展

富山大学芸術文化学部 2年空間デザインB (家具) 成果発表会

日時: 2008年9月3日(水)~29日(月)9:00~17:00 / 火曜休館 / 無料 / 問い合わせ: 富山大学芸術文化学部 0766-25-9111(代)

場所: 氷見市海浜植物園 1F 特設ギャラリー (氷見市柳田 3583 TEL 0766-91-0100)

主催 富山大学芸術文化学部、現代GP 後援 とやまの木で家をつくる会、氷見市海浜植物園 協力 久目林業倶楽部、高岡農地振興センター、岸田木材(株)



森林は、大気中の二酸化炭素を長期にわたって貯蔵する重要な役割を果たしています。そのためには今ある森林にできるだけたくさんの炭素を貯蔵できるよう森林を育てていく作業(間伐)が必要です。また、木材製品を長期にわたって使えば、その間炭素を閉じこめておくことができます。富山大学芸術文化学部では2年生を対象に、とやまで育った木(間伐材)を活かした椅子づくりに取り組みましたので発表いたします。地域材の活用、森づくり、地域環境について考える機会となれば幸いです。

... ..

昨年度までの3年間短大部で氷見のスギ材を利用したインテリア・家具

の授業を行ってきました。今年度からは芸術文化学部の建築2年生学生を中心に県産のスギ材を使い、椅子のデザイン・設計・モデル制作の基本を学ぶ授業を行っています。初日には氷見市久目林業倶楽部の森に入り枝打ちを見学し、高岡農林振興センターの方から県産材の現状を講義していただき、椅子のデザイン作業に入りました。大人や専門家達からは椅子には難しいと思われるスギ材に、そのような既成概念もない学生達が取り組む様子は見ていて痛快でもあります。



丸谷芳正 / 富山大学芸術文化学部教授 / とやまの木で家をつくる会 会員

故中田市郎さんの山の枝払いに参加しませんか!

日時: 10月13日(月・祝) 午前9:00 集合 お昼前まで

場所: 氷見市仏生寺 7069 中田邸前集合

- 持ちもの・服装 : 雨具・飲み物・長袖・長ズボン・長靴
- 参加費 : 無料

今年のはじめに不慮の事故で氷見の篤林家、中田市郎さんが逝去されました。痛恨のきわみでしたが、今はお孫さんの良彦さんが遺志を継いで森を守ってくださっています。毎年下草刈りにおじゃましていましたが、木も育てきましたので、今年は秋に枝払いをさせていただくことになりました。有志の方は、どうぞご参加ください。

とやまの木活用研究会 第一回「木と活と会(きときとかい)」の報告

平成20年8月19日(火) 19:00~21:00 富山県民会館 706号室で講師に小林英俊氏(財)富山県建築住宅センター専務理事、元富山県土木部参事・建築住宅課長・営繕課長)をお迎えし、「建築行政の立場から見た地域材活用へのヒント」の標題でお話ししていただきました。最近、輸入木材の価格が上昇していること、全体の住宅着工戸数が減った一方、全国組織の住宅メーカーが着工戸数を伸ばしていることなどから、家づくりに「とやまの木」を活用して地域の環境に貢献し、他との差別化を図ろうとする工務店・設計事務所が増えているようです。当日は、約30名と多くの家づくり専門家などの参加がありました。

小林氏は元建築行政マンであり建築用の木材流通に直接携わる機会が多くなかったにもかかわらず、林業の状況を詳しく把握されていて、参加者もお話しの顔に頷いていました。印象的だったのは、とやまの木の供給が少ないこと、建築主の相談相手が以前は工務店だったのに今は住宅メーカーが主要になっているこ

と(もしかすると大工さんの家づくりが時代に合わなくなってきている?)、建築主に木へのこだわりが少なくなっていること、などでした。

そのお話を聞いて当会の安田信夫副会長が、「とやまの木を活用した家づくり組織」について提案しました。

とやまの木を本気で活用しようと思う林業家、製材所、工務店、建具メーカー、家具メーカー、設計事務所が集まって、とやまの木を流通させる組織をつくっていきます。そのために、これからも勉強会を続けて開催していきます。この会を地域の木と匠が元気になるように「木と活と会(きときとかい)」と命名しました。とやまの地元で活動している林業家・製材所・工務店・設計事務所など住宅関連の皆さん、とやまの木を活用して地域の環境に貢献して、もっと元気になりましょう。住まい手の方、「もっと素敵な、住まい手と地域の環境に優しい家造ってくれッ」とハッパをかけて応援してください。

池田通則 とやまの木で家をつくる会 会長